

7 まちづくりの基本方針および施策の整理

(1) まちづくりテーマ・基本目標（将来像）

JR新見駅周辺は、交通の要衝である駅を中心に発展し、北側には高梁川、南側には新見美術館が立地し、中心市街地として多くの市民に親しまれてきました。

しかし、近年の少子高齢化や人口減少に伴い、著しい活力低下が課題となっています。

本エリアにおいては、本市の玄関口として各種取組を行いながら拠点性を高めることにより、将来にわたって公的施設をはじめとしたまちの機能を維持していくことが必要です。

また、周辺の文化・自然を活かした取組を行いながら、市民や来訪者を含めた全ての世代が気軽に立ち寄れ、集いにぎわう交流の場を生み出し、本エリアを将来の世代へつないでいくことも求められます。

以上のことから、本エリアのまちづくりのテーマと、それを支える基本目標（将来像）を以下のように定め、まちづくりを推進していきます。

〈まちづくりのテーマ〉

みんなにやさしい みんながたのしい
みらいにつなげるまちづくり

〈3つの基本目標（将来像）〉

未来につながる
新見のゲートウェイ

多様な感性の交流が
生まれ続ける場

みんなで住み継ぐ
活気あふれるまち



(2) まちづくり方針（方向性）および施策の整理

前項で示したまちづくりの基本目標（将来像）を実現するため、まちづくりの方針（方向性）を以下の5つに定めます。また、各方針の施策について、次ページ以降に整理します。

方針1 市の玄関口としてにぎわい・交流を創出する

- 1-1. 誰もが使いやすい駅への整備促進
- 1-2. 駅を中心としたエリアへのアクセス性および拠点性の向上
- 1-3. 新見を感じるおもてなしの環境づくり
- 1-4. 観光周遊拠点としての機能強化

方針2 みんなで使い続けられる心地よい居場所づくり

- 2-1. 歩いて楽しい屋外空間づくり
- 2-2. みんなが集える拠点づくり

方針3 自然の中で豊かな感性を育む

- 3-1. 芸術を取り入れたまちづくり
- 3-2. 高梁川を活かすまちづくり
- 3-3. 子育て環境の充実

方針4 地域の中のさまざまな活力をつなぐ

- 4-1. 若い力を活かすまちづくり
- 4-2. 既存ストックを有効に活用するまちづくり

方針5 暮らしの基盤を整える

- 5-1. 安全・安心な駅周辺エリアの形成



方針 1 市の玄関口としてにぎわい・交流を創出する

施策分野 1-1

誰もが使いやすい駅への整備促進

J R新見駅は、伯備線、姫新線、芸備線の3路線が乗り入れる要衝駅であり、古くから山陰山陽の結節点として機能してきました。今後も地域の核として、そのポテンシャルを維持していくことが望まれています。

一方、駅舎については老朽化が進み、乗り換えのための地下道はバリアフリー未対応となっています。

本市の玄関口として、子どもから高齢者まで、誰もが移動しやすい環境を整えるため、駅のバリアフリー化や橋上化など、利用環境の改善に取り組む必要があります。

また、線路によって分断された駅南北をつなぎ、本エリアの一体的なにぎわい形成を目指すことも求められます。

施策

重点!!

01 J R新見駅バリアフリー化・橋上化

エレベーターの設置等によるバリアフリー化を進めていきます。
また、駅の橋上化についても関係機関と協議を進め、駅のリニューアルを進めていきます。

重点!!

02 南北自由通路の設置

J R新見駅の南北に簡単にアクセスできるよう、駅前交流空間やえきなん広場整備と連携し、駅と一体となった南北自由通路を設置します。



橋上駅および自由通路のイメージ（高梁市）

03 J R新見駅構内のWi-Fi環境整備

J R新見駅構内におけるWi-Fi通信が可能な環境整備を行い、駅の利便性を高めます。



※番号に「重点!!」のマークがついている施策は、重点施策を表現しています。



市内の各施設や拠点から本エリアまでの公共交通は、便数や運行時間が限定されており、アクセスしにくい状況にあります。

本エリアの拠点性を高めるため、駅周辺のバリアフリー化、公共交通の充実、レンタサイクルなどのモビリティの活用により、駅を中心とした本エリアへのアクセス性を向上させていきます。

施策

04 | 公共交通（バス等）の充実

まちづくりの進捗状況に合わせ、適宜必要な公共交通ニーズを把握し、関係機関との調整を進めていきます。

05 | レンタサイクルの利用促進

現在運用されているレンタサイクルについて、サイクルポートの増設や周遊ルート等を検討し、利用促進を行います。



レンタサイクルポートのイメージ

本エリアには、気軽に立ち寄れるスポットが少なく移動以外で訪れる機会や特産品を気軽に味わうことができる施設が少ないことが課題として挙げられています。駅利用者や美術館来館者などについても、周遊することなく目的地のみをワンスポットで訪れている傾向にあると考えられます。

本エリアの来訪者が、新見の文化を感じ、学ぶことができるおもてなしの空間や、気軽に新見の食文化などに触れられる環境を整えていきます。

また、新見の基幹産業である石灰や旅客の輸送で活躍していたD51(デゴイチ)を地域のシンボルとして活用したまちづくりについても検討していきます。

施策

06 地域のシンボルとしてのD51の活用

新見のシンボルとして、D51を活用するまちづくりを推進するため、新見駅周辺への移設を検討していきます。



D51 (デゴイチ)

07 新見を感じる店舗の出店誘致

JR新見駅周辺に、新見市が誇る新見A級グルメや特産品を提供する店舗の誘致を進めていきます。



新見A級グルメ

08 来訪者へのおもてなし体制づくり

多様な来訪者を受け入れるための人材育成をはじめ、さまざまなツアーパッケージの開発などを推進し、おもてなし体制の構築を目指します。



本エリアの来訪者は、ワンスポットのみ訪れ、帰ってしまう傾向にあると考えられます。

市内観光地との連携を図りながら、ワンスポットでなく、J R新見駅を中心にさまざまなスポットを周遊してもらう取組を行い、観光周遊の拠点としての機能強化を図ります。

施策

09 観光地の分かりやすい情報発信

J R新見駅周辺のエリアマップ作成や、市内観光地への移動手段等の情報発信を行うためのデジタルサイネージ等の案内ガイドの充実を進めていきます。



分かりやすい情報発信

10 市内の各観光拠点との連携

新見の観光周遊拠点として、他観光スポットとの周遊促進など、市内の観光地との連携企画を充実させていきます。



市内周遊スポットのイメージ

方針2 みんなで使い続けられる心地よい居場所づくり

施策分野 2-1

歩いて楽しい屋外空間づくり

本エリアの北側には、国道180号が東西方向に走っており、市民の生活軸となっています。

本エリアのにぎわい形成に寄与するため、国道180号からJR新見駅を結ぶ新たなウォカブル軸を形成し、メインストリートとして歩いて楽しい屋外空間づくりを進めます。

また、駅を中心に、散策したくなる仕掛けづくりに取り組んでいきます。

施策

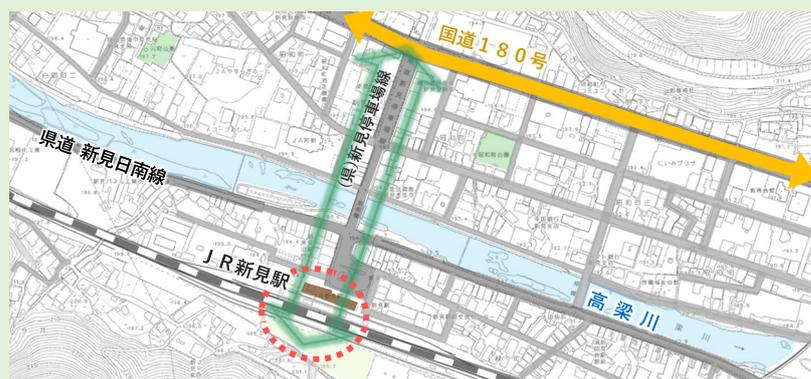
重点!!

11 居心地が良く歩きたくなるウォカブル軸の形成

JR新見駅周辺から国道180号へ向かう道を中心にウォカブル軸を設定し、ベンチやパラソル等の設置による滞留空間の形成や、建物と連携した広がりある空間の形成により、にぎわいある歩行空間を目指します。



にぎわいある歩行空間のイメージ



ウォカブル軸のイメージ

12 ウォーキングや散策コース等の案内の設置

JR新見駅周辺を起点とした、ウォーキングや散策ルートを検討し、案内の設置等を行います。



本エリアには、市民や学生が気軽に立ち寄れるスポットが限られており、バスや列車の待ち時間を快適で有意義に過ごせる空間が乏しいことが、課題の一つとして挙げられています。

多機能広場や勉強・仕事などが行えるフリースペースの整備、定期的な催しの開催などを行い、若者から高齢者までそれぞれ集い楽しめる居場所づくりに取り組んでいきます。

また、D51（デゴイチ）を活用した広場づくりについても検討していきます。

施策

重点!!

13 えきなん広場の整備

JR新見駅南隣接地を活用し、みんなが自由に集い憩える拠点としての広場空間の整備を行います。



広場のイメージ

重点!!

14 駅前交流空間の整備

JR新見駅前に多目的な交流空間を整備し、来訪者や地元住民、高齢者や学生などが有意義な時間を過ごせる拠点づくりを行います。



気軽に立ち寄れる屋外空間のイメージ



勉強・仕事ができるフリースペースのイメージ

15 定期的な屋台村や物産展などのイベント開催

えきなん広場や駅前交流空間において、マルシェや屋台村などの催しを定期的に開催し、駅周辺のにぎわいを形成していきます。



駅前でのイベント開催のイメージ

方針3 自然の中で豊かな感性を育む

施策分野 3-1

芸術を取り入れたまちづくり

本エリアの南側には、新見美術館が立地しており、市内の重要な文化的施設となっています。

本エリアのまちづくりにおいても、芸術・文化の核となる美術館と連携しながら、にぎわい形成につながる各種取組を進めていきます。

施策

重点！！

16 新見美術館のリニューアル

新見美術館は、建設後 30 年以上が経過し更新期を迎えていることから、移転も含め新見駅周辺のまちづくりと連携した整備を検討していきます。



新見美術館

17 駅周辺でのアートイベント、アートギャラリーの開催

JR 新見駅周辺エリアにおいて、新見美術館と連携したアートイベントやアートギャラリーなど、「芸術」をテーマとしたイベント開催を検討していきます。



芸術をテーマとした催しのイメージ

本エリアの中央には、高梁川が流れています。甌穴河床^{おうけつ}を間近に見ることができ、
 親水公園も整備されており、地域の憩いの場となっています。

高梁川でのイベント開催や、川を眺めながら時間を過ごすことができるスペース
 を整備するなど、高梁川をさまざまな視点から活かし、楽しめるまちづくりを推進
 していきます。

施策

重点!

18 高梁川かわまちづくり*

川辺でのイベント開催や遊歩道の整備など、高梁川をより身近に親しむ
 きっかけとなるような取組を検討し、かわまちづくりを推進していきます。



川を楽しめる屋外空間のイメージ



河川沿い遊歩道の整備のイメージ

※「かわまちづくり」とは：「かわづくり」と「まちづくり」を一緒に考え、市町村、民間事業者お
 よび地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合し
 た良好な空間形成を目指す取組のこと。（P16参照）



本エリアにおいて、親子で楽しめる施設の設置を望む声が多数あります。子育て世代が使いやすく、子どもたちが楽しめるまちづくりを進めていきます。また、本市においては、新見公立大学との連携協定により、児童福祉分野において大学と連携したさまざまな取組が行われています。引き続き大学と連携し、子育てしやすい環境への取組を推進していきます。

施策

19 | 子どもの遊び場の創出

J R 新見駅周辺において、乳幼児から児童まで、幅広く楽しめる遊び場の創出を推進していきます。



雨天時も遊べる空間のイメージ



子どもが楽しめる空間のイメージ

20 | 新見保育所や近隣小学校と連携した子育て支援

J R 新見駅周辺での子育て支援の充実にあたっては、J R 新見駅に近接する新見保育所や近隣小学校等と連携し、支援策を検討していきます。

方針4 地域の中のさまざまな活力をつなぐ

施策分野4-1

若い力を活かすまちづくり

本市には、新見公立大学と2つの高等学校があり、学生のまちづくりへの積極的な参画が期待されています。

若者の感性を活かした情報発信や、新たなまちづくり活動の企画など、さまざまなまちづくりの局面で学生や若者が参加しやすい取組を推進していきます。

施策

重点!

21 学生も参加できるまちづくりプラットフォームの形成

新見駅周辺エリアのまちづくりの推進にあたっては、学生も参画メンバーの一員として加わる「新見駅周辺まちづくりプラットフォーム[※]」を構築し、さまざまな主体と学生が関わりながら、まちづくりを推進していきます。



学生との協働によるまちづくり

※「新見駅周辺まちづくりプラットフォーム」：P 5 6 参照

22 若者によるSNS等での情報発信

学生等により、JR新見駅周辺の取組や新たなスポットを定期的にSNS等で掲載し、学生視点での新見の良い所、魅力的な要素を情報発信してもらう取組を推進していきます。

本エリアには、空き家や空き地、空き店舗等の既存ストックが多数存在します。それらを有効に利活用するために、新たな店舗やニーズのある用途へのリノベーションを推進していきます。

また、既存の商店などと連携しながら、新たな店舗などを活かした取組を行っていきます。

施策

重点!!

23 空き家・空き地等を活用した魅力的なテナントによるまちなみづくり

JR新見駅周辺における空き家、空き地等の活用検討を行い、出店希望者の募集や出店希望者と所有者とのマッチング支援等の取組を推進していきます。



空き家を改装した店舗のイメージ



チャレンジショップのイメージ

24 既存事業者への継続支援

新規の出店希望者への支援だけでなく、駅周辺の既存事業者に向けても継続支援を行い、新規補助メニューの充実も検討していきます。

25 既存事業者との連携イベント等の開催

新規出店者と既存事業者が連携した、定期的なイベント等の開催についても推進していきます。



方針5 暮らしの基盤を整える

施策分野5-1

安全・安心な駅周辺エリアの形成

近年の集中豪雨により、本エリアにおいても土石流や床上浸水の被害が発生しました。

今後もさまざまな自然災害が起こる可能性がある中、さまざまな来訪者が訪れる拠点エリアとして、防災、減災に留意したまちづくりを推進していく必要があります。

オープンスペースや道路の整備等により、安全・安心なエリアの形成を目指していきます。

施策

重点!

26 防災や減災に留意したまちづくりの推進

災害の予防または災害拡大を防止するため、雨水対策事業や砂防事業等を推進します。また、防災マップ作成や防災訓練の実施により市民の防災意識の向上を図ります。



豪雨による被害状況

水路の復旧整備箇所

27 災害に配慮した適切な土地利用の促進

災害ハザードエリアを踏まえた持続可能な都市づくりのため、「新見市立地適正化計画」に基づき、居住機能および医療・福祉・商業・公共交通等さまざまな都市機能について適切な誘導を図っていきます。

28 安全で利用しやすい道路整備

主要地方道新見日南線や新見駅西エリア等の道路整備を推進し、積極的なオープンスペースの確保により、安全・安心なエリアを形成します。また、南北連絡自由通路の整備により、安全なまちづくりに寄与していきます。